

まちづくり懇談会ふれあいトーク 「テーマトーク」

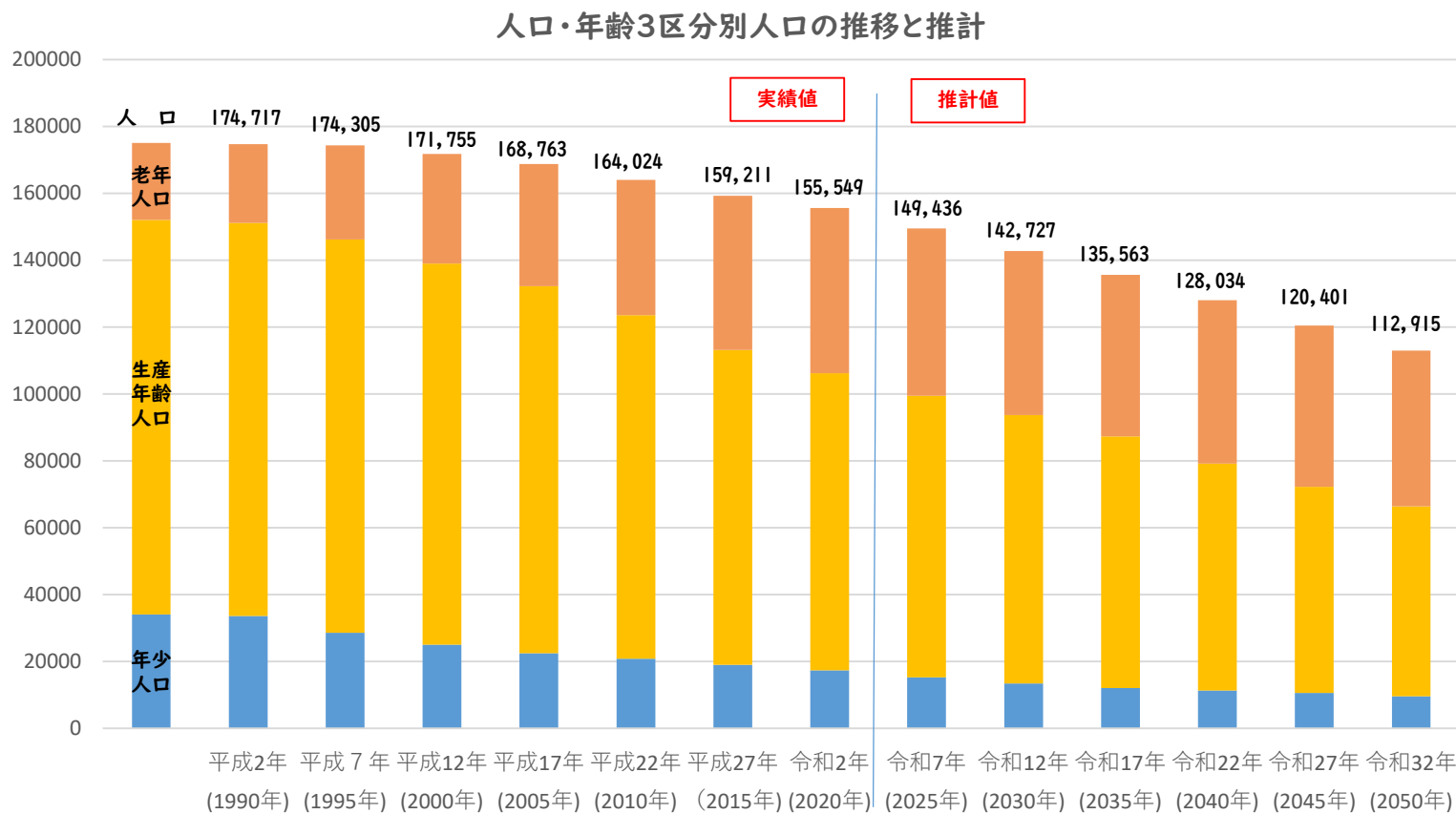
女性も活躍する地域について

「人口減少」、「少子高齢化」が進む栃木市において、特に20歳から39歳の女性の減少する割合が高くなっています



総人口・年齢3区分別人口の推移と推計

- ・本市の総人口は平成2年の174,717人をピークに減少に転じており、令和2年には155,549人となっている。
- ・国立社会保障・人口問題研究所が令和5年3月に公表した推計によると、本市の総人口は、今後、減少傾向が続き、20年後の令和27年には120,401人まで減少すると予測されている。

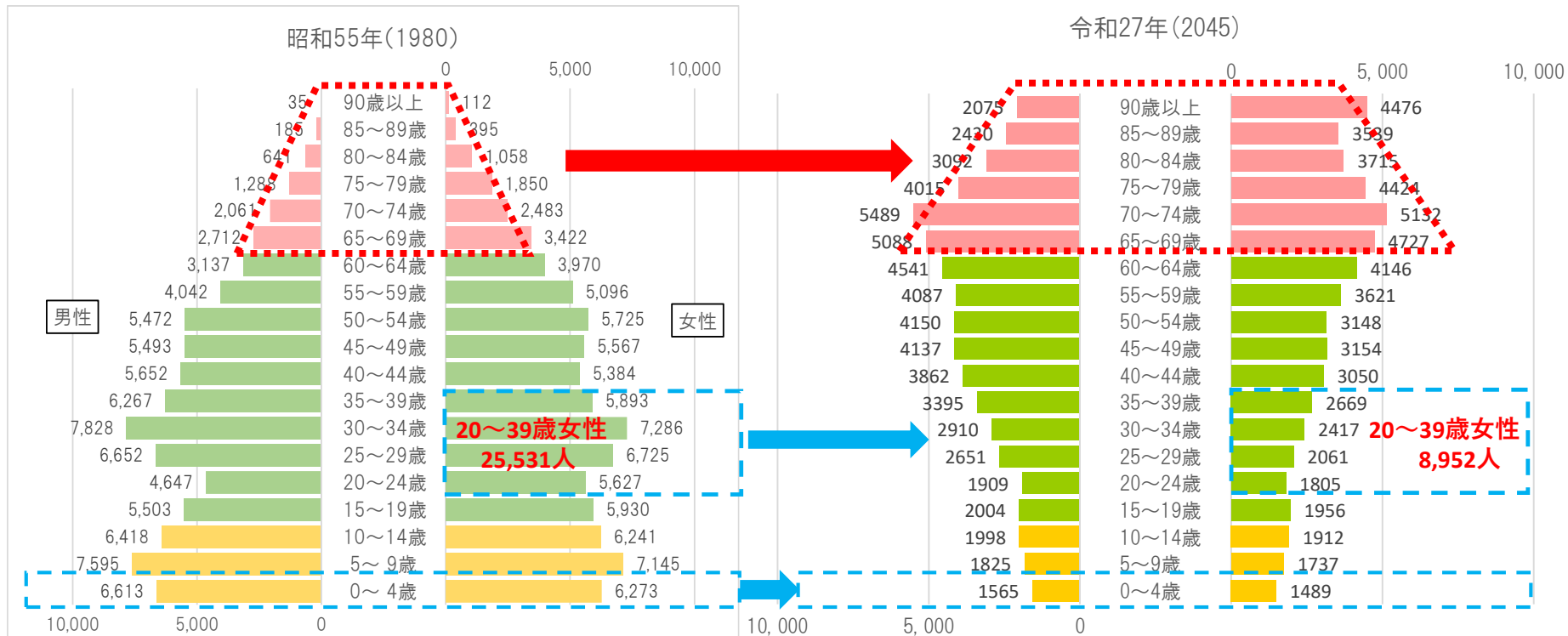


資料：実績：国勢調査

推計：国立社会保障・人口問題研究所

年齢別人口における推計

- ・本市の人口構造は、昭和55年(1980)には「星形(都市型)」であったものが、少子高齢化、人口減少により、令和27年(2045)には、グラフは細くなりつつ、頭が大きい「つぼ型」に進むと予測されている。
- ・0～4歳においては9,832人減少し、1/4となる3,054人。また、男性、女性をそれぞれ比較してみると、全体的に女性の減少が著しく、20～39歳女性においては8,952人と推計されており、1/3 まで減少することが予測されている。
- ・65歳以上においては令和27年には48,202人と推計され、全体人口の40%を占める。



資料：実績：国勢調査

推計：国立社会保障・人口問題研究所

都道府県別東京都への流出男女差（20歳代）

女性の流出が多い県

秋田県	130.36%
岩手県	121.74%
福島県	118.54%
新潟県	115.29%
青森県	111.89%
栃木県	110.92%
島根県	108.58%

男性の流出が多い県

奈良県	77.69%
滋賀県	79.45%
三重県	80.25%
大阪府	83.38%
兵庫県	84.62%
京都府	88.10%
愛知県	89.98%

栃木市・・・116.61%

※総務省「人口移動報告2024」より

人口に対する東京都への転出者の割合（20-29歳の東京都への転出/20-29歳の人口）を男女別に算出しその割合を比較
男性100に対する女性の割合のため、100を超えると女性の流出が多く、100未満は男性の流出が多くなる



子育てに関する支援策等

①赤ちゃん誕生祝金

次代をになう子どもたちの健やかな成長を願い、赤ちゃん誕生のお祝い金を支給します。

お子さんの誕生により、現在養育している18歳未満のお子さんが

第2子	10,000円
第3子以降	20,000円



③保育料の無償化

下記(1)～(3)に該当する児童が2人以上いる世帯において、2番目の児童の保育料が免除されます。

また、3番目以降の児童については、保育料及び副食費が免除されます。

(1) 18歳未満

(2)他に生計の途がなく、主として保護者等が扶養している大学生等で、22歳未満

(3)保護者等が育てている障がい者の方で、20歳未満

②すくすく子育て応援事業

子育て世帯の経済的負担の軽減を図るとともに、子育ての孤立化等による子育ての不安や悩みを抱える父母等を早期支援することを目的とし、出生時と概ね生後4か月に紙おむつ等を市窓口、地域子育て支援センターで支給する。

④不妊治療費助成の拡充

⑤産前産後ヘルパー派遣事業

⑥産後ケア事業

⑦子育てアプリ「栃木市すくすくナビ」など



出会いの場創出支援事業

結婚を希望する方の出会いの機会づくりとして次の事業を実施

- ・コミュニケーションや身だしなみを学ぶスキルアップセミナー
- ・内面重視のマッチングを促進したバスツアー

栃木市移住支援補助金 (とちぎWorkwork就職促進プロジェクト事業)

補助金額

東京圏から移住して就業、起業、テレワーク等した者の移住及び定住に要した経費の一部を補助

単身：60万円

世帯：100万円

※18歳未満の世帯員1人につき
100万円加算

年度	総世帯員数 (人)	内、女性の人数 (人)
令和3年度	4	2
令和4年度	15	7
令和5年度	10	4
令和6年度	22	10
合計	51	23



移住・定住補助制度

1 とちぎで暮らそIJU支援補助金

本市へ移住するための住宅を新築・購入し、今後も本市に住み続けていただける方に補助金を交付。

新築:市街化区域30万円、調整区域20万円、 中古:一律10万円

2 結婚新生活支援補助金

市内で新婚生活を始めるご夫婦の新居における家賃や購入費、引っ越し費用に補助金を交付。

最大30万円

3 東京都通勤者支援補助金

都内へ通勤する者に対し、定期券購入費の一部を補助することにより、経済的負担の軽減を図るとともに、東京都通勤者の本市への移住を促進。

1月当たり最大1万円

4 通学者定期券購入費補助金

鉄道を利用して首都圏へ通学する方の通学費用の一部を補助することで、若者世代の市外流出を抑制。

1年度あたり最大2万円

5 あったか住まいるバンク制度(空き家バンク)

登録いただいた賃貸・売買の可能な空き家等を市ホームページで情報提供し、利用希望者に紹介。

6 空き家バンクリフォーム補助

空き家バンクに登録された空き家等のリフォームや家財処分に対し、補助金を交付。



「とちぎ市男女共生大学」の実施

令和6年度「とちぎ市男女共生大学」学習プログラムと講座別出席状況

回	日時・会場	学習テーマ	講師	出席数
1	5月22日（水） 10:00～11:30	講話・実技「アンガーマネジメント+怒らない体操」	ヤマゼンコミュニケーションズ(株) 山本 果奈 氏	23名
2	7月18日（木） 13:00～16:30	映画上映会・トーク交流会「マダム・イン・ニューヨーク」 ※栃木市女性団体連絡協議会と共催		180名
3	9月25日（水） 10:00～12:00	講話・実技「災害が起こった時にあなたが支援できること」	日本赤十字社栃木県支部	24名
4	10月23日（水） 19:00～20:30	講話・実技「プロから学ぶ美味しいコーヒー淹れ方講座」	湯澤珈琲 湯澤 和貴 氏	21名
5	11月6日（水） 9:30～12:00	講話・実技「スマホ楽習会」	日本メディアセンターキラリネットサロン 伊東 正道 氏	20名
6	11月26日（火）	講話「多様性を楽しめる社会の担い手づくりに向けて」	栃木市教育長 青木 千津子 氏	35名
7	12月14日（土）	講話「夢実現へのチャレンジ」	理工系女子応援大使 杉本 雛乃 氏	42名
	1月25日（土） 13:30～15:30	とちぎ市男女共同参画のつどい ○男女共同参画標語コンテスト 最優秀賞の表彰 ○栃木市男女共同参画推進事業者表彰及び取組事例発表 ○講演「みんなで取り組むジェンダーギャップ」講師：大崎麻子氏		80名



様々な子育て支援や若者支援等を実施しているが、人口減少が続いている。



**女性も活躍する地域について
地域の皆さんと一緒に考えたい**



本日の「テーマ」

「女性も活躍する地域」



本日の「テーマ」

「女性も活躍する地域」

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

